

【政策 3】健康・福祉



【施策 3-1】

市民一人ひとりが健康に心がけ、生涯元気で暮らすことができるよう支援します

主管課：健康づくり課

関連課：市民課／厚生課／高齢福祉課／子ども育成課／スポーツ課

◆現状と課題

小諸市は、平均寿命・平均自立期間（日常生活動作が自立している期間の平均を指標とした健康寿命）とも国を上回り、一人当たりの医療費も低い状況にあるが、特定健診受診率が低く、今後の健康寿命等への影響が懸念される。

また、核家族化等により子育てに不安を抱える家庭が増えていることから、育児不安の解消や虐待予防のために、関係機関との連携による継続した支援が必要となっている。

市内の二次医療機関では、医師の確保が課題であるため、医師の定着に向けた効果的な支援策について検討していく必要がある。さらに、新型感染症等の流行に伴い、医療体制がひっ迫する恐れもあることから、感染症の拡大を防ぐ必要がある。

◆方針（目的）

一人ひとりが健康に心がけ、健診や健康づくり事業に参加できるよう環境を整えるとともに、多くの方が参加できるような仕組みを構築する。

安心して妊娠・出産・子育てができるよう、関係機関と連携し、時機を捉えた効果的な支援を行う。

誰もが必要なときに必要な医療を受けることができるよう、二次救急医療体制の存続と病診連携への支援を行うとともに、新型感染症等の拡大を防ぎ地域医療体制を堅持する。

◆目標

- ①市民一人ひとりが健康に心がけ、日々の運動やバランスの良い食事を意識し、実践できている状態。
- ②医療、保健、福祉等が連携し、支援の必要な方への早期介入ができている状態、また妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援ができている状態。
- ③二次救急医療機関が将来にわたり安定して存続し、病院、診療所、薬局などがそれぞれの役割と機能を果たし、連携が図られている状態。新型感染症等の予防、啓発活動により感染の拡大を防止できている状態。

◆目標値

①	指標名	平均自立期間				
	設定理由	一人ひとりが健康に心がけ、日々の運動やバランスの良い食事を意識することで自立期間が延びるから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 男性80.0歳 女性85.1歳	令和2年度 男性80.25歳 女性85.40歳	令和3年度 男性80.31歳 女性85.65歳	令和4年度 男性80.37歳 女性85.90歳	令和5年度 男性80.43歳 女性86.15歳
②	指標名	特定健康診査（国民健康保険）受診率				
	設定理由	一人ひとりが健康に心がけるようになると、自分の健康状態を確認するため健康診断を受けるようになるから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 44.8%	令和2年度 50%	令和3年度 55%	令和4年度 60%	令和5年度 60%
③	指標名	安心して医療が受けられると感じている人の割合（市民意識調査）				
	設定理由	必要な時に必要な医療を受けることができるようになると医療満足度が上昇するから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 66.3%	令和2年度 66.4%	令和3年度 66.6%	令和4年度 66.8%	令和5年度 67.0%

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

小さな子どもから高齢の方まで、すべての市民一人ひとりが健康に心がけ、生き生きと生涯を送れるよう関係機関と連携し、様々なサポートを行う。

◆主な事業

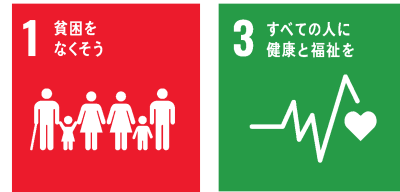
地域医療体制整備事業／精神保健福祉事業／予防接種事業／健康診査事業
／健康づくり事業／母子保健事業／乳幼児健診事業／妊産婦等支援事業
／子育て世代包括支援センター運営事業

◆個別計画

健康づくり計画（げんき小諸21）／特定健康診査等実施計画／スポーツ推進計画
／保健事業実施計画（データヘルス計画）／食育推進計画

【政策 3】健康・福祉

【施策 3-2】



誰もが安心できる福祉環境を整備します

主管課：厚生課

関連課：健康づくり課／高齢福祉課／子ども育成課

◆現状と課題

高齢世帯の増加や核家族化・少子化が急速に進展し、社会構造の変化・人口減少等により、地域コミュニティの持続性の低下や弱体化が懸念されている。

また、複雑化している様々な社会的・経済的要因により、格差の拡大、生活困窮や住居確保、家族構成の多様化等に対応する地域福祉課題は増加している。

このような状況のもと、住民間の支え合いの機運は幾分高まりつつあるが、民生児童委員など中心的な担い手不足も課題となっている。

地域福祉を地域全体で支えていくためには、地域の各主体間の連携体制をより一層充実させると共に、地域住民一人ひとりが支援の必要な住民に寄り添う意識の醸成と、行政等による福祉環境の整備が必要である。

◆方針（目的）

誰もが住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、地域全体で支え合う地域コミュニティの強化・充実を図るとともに、支援が必要となった場合の生活や福祉について、関連する庁内部課および関係機関、団体等が有機的に連携することで、安心して相談や支援を受けることのできる体制を整備し、社会的弱者や生活困窮者等の社会的自立に向けた支援を行う。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活困窮者や、また、日頃から支援が必要な方への支援体制を整備する。

◆目標

- ①民生児童委員などの地域福祉の担い手や、区、地域住民、社会福祉協議会等、各種団体が連携を強化し、それぞれが活発に活動できる状態。
- ②生活困窮者、ひとり親等への自立支援が充実した状態。
- ③障がい者等、支援を必要としている住民を地域全体で支える意識の醸成と、地域体制、サービス体制が整備された状態。
- ④新型コロナウイルス等感染症が拡大した場合に対応する適切な支援体制が整備された状態。

◆目標値

①	指標名	地域で支え合っていると感じている人の割合（市民意識調査）				
	設定理由	目標である地域福祉の担い手や各団体の支援活動が活発に行われていれば、「地域で支え合っていると感じている人の割合」に反映されるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		44.2%	46%	48%	50%	54%
②	指標名	障害のある人への福祉サービスに対する市民満足度（市民意識調査）				
	設定理由	目標である障がい者等、支援を必要としている住民を地域で支える意識と地域体制、サービス体制が整備されていれば、福祉サービス満足度に反映されるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		46.8%	49%	52%	55%	58%
③	指標名	小諸市生活就労支援センター（まいさぼ小諸）での自立相談計画の終結者数				
	設定理由	まいさぼ小諸における自立相談支援計画が終結し、次のステップに移行できた人が多ければ、生活困窮者の社会的自立支援が充実していることにつながるため。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		11人	13人	15人	18人	18人

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール1 「貧困をなくそう」

国内の経済・雇用状況の変化や、家族構成、心身の障がいまたは健康状態等により生活困窮の状況にある方に対して、福祉・医療・住居・就労等に関するサービス体制の連携により、あらゆる貧困状態から脱する支援を実施する。

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

すべての市民が自分らしく、健康で心豊かな生活ができるよう、障がい、生活困窮等にある方も、生き生きと生活できる福祉支援が行き届く体制を整備する。

◆主な事業

障害者総合支援給付事業／自立相談支援事業／生活保護受給者就労支援事業
 ／障害者地域生活支援事業／生活保護適正実施推進事業／障害者援助事業
 ／障害者福祉医療等給付事業／社会福祉総務費運営費

◆個別計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画／障がい者プラン（福祉行動計画）／障害福祉計画
 ／障害児福祉計画

【政策 3】健康・福祉

【施策 3-3】



高齢者が住み慣れた地域で、安心して生き生きと暮らせる地域づくりを推進します

主管課：高齢福祉課

関連課：厚生課／健康づくり課

◆現状と課題

高齢者人口は年々増加し、高齢化率は 32% を超え、まもなく市民の 3 人に 1 人は高齢者となる。さらに、団塊の世代が 2025 年には後期高齢者となり、介護サービスを必要とする高齢者が増加することは必至である。

介護職等の専門職については慢性的な人員不足が続き、今後も人員不足の解消は見込まれない状況の中、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる体制を構築していくと同時に、介護予防事業を充実させ、年々増加していく介護給付サービス費を抑え介護保険制度を持続可能な制度としていかなければならない。

◆方針（目的）

高齢者が安心して住み慣れた地域で生活できる地域づくりを推進するため、小諸北佐久医療・介護連携推進協議会、地域ケア会議などの開催により多職種の連携強化を図る。

また、高齢に伴う外出機会の減少に加え、新型コロナウイルス感染症による外出制限などにより、社会参加の場が減少し、心身の機能が低下する「フレイル」（虚弱）が心配されるため、各種健康教室や専門職による訪問指導の実施、各地区で行われる介護予防事業の支援など、要介護者の増加を抑えるための事業を進め、健康寿命の延伸を図る。

◆目標

- ① 支え合いの充実により、安心して地域で生活できる高齢者が増えた状態。
- ② 介護予防事業、各種健康教室などの充実により健康な高齢者を増やし、そのことにより、介護給付サービス費の増加を抑制し、介護保険制度を持続可能なものとしていく状態。

◆目標値

指標名	介護申請（65歳以上）の初回申請平均年齢				
設定理由	介護予防の充実により、初回介護申請の平均年齢を維持する。				
① 目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	男性83.6歳 女性85.1歳	男性83.6歳以上 女性85.1歳以上	男性83.6歳以上 女性85.1歳以上	男性83.6歳以上 女性85.1歳以上	男性83.6歳以上 女性85.1歳以上
指標名	要介護認定率				
設定理由	介護予防事業が充実すると、高齢者人口に対する要介護者（要支援1～要介護5）の割合が増えないから。				
② 目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	13.2%	13.2%以内	13.2%以内	13.2%以内	13.2%以内

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

高齢者の生きがいがいづくりのための支援や介護予防事業の実施により、健康な高齢者を増やす。

ゴール11 「住み続けられるまちづくりを」

在宅医療・介護の連携、支援を必要とする高齢者及び認知症高齢者やその家族の支援など支え合う地域づくりを推進し、住み慣れた地域で安心して暮らせる体制を整備する。

◆主な事業

高齢者保護支援費／在宅福祉サービス事業／介護予防事業／生きがい対策支援事業
／包括的支援事業／新包括的支援事業／介護予防・生活支援サービス事業
／一般介護予防事業

◆個別計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画／高齢者福祉計画・介護保険事業計画